令和５年度　第３回地域医療支援病院に関する委員会

開催日時	令和５年 11 月 24 日(金)　13 時 30 分から 14 時 00 分まで
開催場所	大垣市民病院２病棟１階　会議室
議　　題	定例報告及び紹介率向上への取組みについて
出席委員 （敬称略）	委員長　大垣市医師会長　沼口　諭 副委員長　大垣歯科医師会会長　馬淵　直樹 委員　大垣市医師会副会長　竹中　清之 委員　大垣市医師会理事　森　俊治 委員　大垣歯科医師会顧問　片野　雅文 委員　大垣薬剤師会長　松本　正平 委員　大垣市女性連合会長　竹中　昌子 委員　岐阜協立大学看護学部教授　神谷　真有美
公開区分	公開
傍 聴 人	なし
概　　要	**1. 報告事項** **(1)定例報告事項** **1)よろず相談・地域連携課から、①紹介率・逆紹介率、②地域連携を介した診察・検査件数、③開放型病床利用状況、④救急統計、⑤地域の医療従事者に対する研修・講演会の開催状況、⑥地域連携クリニカルパス登録状況、⑦OMNet 利用状況、⑧地域の医療機関との連携相談実績について報告した。** ①紹介率……5 年 4 月～5 年 10 月:69.6% 逆紹介率…5 年 4 月～5 年 10 月:146.0% ②地域連携予約診察件数…5 年 4 月～5 年 10 月計:6,712 件 地域連携予約検査件数…5 年 4 月～5 年 10 月計:485 件 ③開放型病床登録医数…5 年 10 月末:160 人(医科 131 人、歯科 29 人) 開放型病床利用率…5 年 4 月～5 年 10 月:10.8% 緊急緩和ケア病床利用率…5 年 4 月～5 年 10 月:4.4% ④救急受診患者数…5 年 4 月～5 年 10 月計:23,261 人(月平均 3,323 人) 救急車利用件数…5 年 4 月～5 年 10 月計:6,454 件(月平均 922 件) 救急入院患者数…5 年 4 月～5 年 10 月計:1,979 件(月平均 283 件) ⑤地域医療従事者に対する研修…5 年 4 月～5 年 10 月開催数:14 回、院外受講者 80 人 ＊病診連携カンファレンス、西濃がん早期診断研修会等、西濃地域緩和ケア研修会、診療報酬に関する委員会等 市民対象講演会等…5 年 4 月～5 年 10 月開催数:2 回、院外受講者 45 人 ⑥地域連携クリニカルパス登録状況…5 年 4 月～5 年 10 月登録総数 405 件 5 年 10 月末時点でのパス開始からの登録総数:12,461 件

	⑦OMNet 利用状況…5 年 10 月末時点の利用登録医療機関:125 機関 診療情報閲覧に同意した患者総数:40,883 人 ⑧地域の医療機関との連携相談実績…5 年 4 月～5 年 10 月計:7,198 件 医療相談実績…5 年 4 月～5 年 10 月計:1,023 件 **2) 上記の報告について次のとおり質疑応答等が行われた。** （委員） 全体的に患者数が減っているという事か。 （事務局） 患者数は全体的に減っている。地域連携を介した診察予約件数は、診察は 1 %減少なので全体としてあまり大きな減りではない。診療科によっては 30%減っているところがあるので、精査する必要がある。 （事務局） 開放型病床の件で、院内の医師から、共同診療の実績がないので、共同診療というかたちでやられてはどうかという意見があった。 また、鼻水がいっぱい出て息が苦しいクレームの多い感じの人を、「外来で対応するのが大変なので入院させてくれないか」というような利用のされ方は 100%間違っている訳ではないが、主旨とは反するので適正な使い方をしてほしいという意見があった。 （委員） 利用している先生方には伝えさせていただく。 （委員） 相談というのは直接の方が多いのか、電話の方が多いのか。 （事務局） どちらが一方的に多いというのではなくて、両方ともそれなりの数を承っている。 **(2)紹介率向上への取り組みについて** **1)よろず相談・地域連携課から、紹介率向上への取り組み状況について次のとおり報告した。** ①令和 5 年度 4 月から 10 月までの患者さんからの電話予約実績は 451 件。地域別では大垣市の先生が約 9 割を占めている。診療科別では歯科口腔外科が約 4 割を占めており小児科、耳鼻咽喉科の順となっている。 ②かかりつけ医紹介センターの相談件数は、令和 5 年度 4 月から 10 月まで 30 件。診療科別としては、循環器内科が 46.8%、神経内科が 13.3%となっている。 **2) 委員から、上記の報告について意見・質問はなし。**

	2. その他 （委員） 　薬剤部で大きな 2 つの変化があったと思う。1 つは 11 月から一包化の患者さんは院外処方にする事。もう 1 つは薬剤師の社会人経験者の募集。これは両方とも薬剤師の人手不足が原因と聞いている。その辺の状況を教えてほしい。社会人募集というと 3 年経った方が条件だと聞いているが、新卒でドラッグストアに勤めた場合、1 年以内に半分近くが辞めると聞いているので、市場が結構あるのでは？募集の仕方を再考してみてはどうか。 （事務局） 　今年度の新卒薬剤師の募集で欠員が生じた。新卒の場合だと筆記試験・面接試験をやってという事になるが、大学を出てから時間が経つと筆記試験の勉強をする事も難しい。今回は筆記試験をやらない代わりに 3 年以上の経験を持っておられる方という事で募集したものだ。卒後 3 年未満の若い方は次の年度の採用試験を受けるチャンスもある。 　実情については、働き方改革も含めて、産休・育休の薬剤師が 12 月から 5 名。その 5 名が産休・育休から明けてきても家庭の事情で時短勤務になるため、増員をお願いしたが、なかなか集まってこない。 （委員） 　数年前に薬剤師も医師・看護師のように随時募集にできないかという事を述べさせてもらった時に、いずれ院外処方にするから問題ないと言っていた記憶がある。院外処方にこれからシフトするのであれば問題ないが、一包化になるとどれぐらいのパーセンテージが院外処方に変わるか分からないが、やはり随時募集という事を考えていただければ。 （委員） 　一包化の方だけ院外にという事だが、割合としてどれくらいか。 （事務局） 　1 日に 50 枚から 70 枚ぐらい。大体 7%から 8%ぐらいが一包化という事になる。 （委員） 　ＯＭＨ　Journal は非常に身近なイメージという事になると思う。そのまま続けていただきたい。配付は医療機関だけか。 （事務局） 　配付は医療機関だけです。
次回開催	令和 5 年度第 4 回委員会は令和 6 年 2 月 2 日に開催予定とする。